

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	－	－	－
	○	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明なところもあるが、消費税増税後の反動減がみられた前年と比べると、若干、景気は良くなってきている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・11都府県を対象とした緊急事態宣言が続くなか、区域内の来街者数は昼間、夜間を問わず最低の水準が継続している。特に夜間においては、午後6時頃の来街者が例月の1～2割程度まで落ち込んでいる。荒天の影響もあり、1人の客もみられなかった日があるという店舗も僅かではあるが増えてきている。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・11都府県を対象とした緊急事態宣言の影響で人の動きが抑制されており、来客数が減少したままの状態が続いている。緊急事態宣言が解除されるまでは今の状況が続くことになる。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・食品の売上が好調であり、1月も前年を3%程度上回っている。一方、衣料品は前年の8割程度の水準から脱却できずにいる。新型コロナウイルスの感染防止対策が始まった頃から不要不急ではない商材の購入を控える傾向が続いており、新型コロナウイルス禍前の状態にはなかなか戻ってこない。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・3密を避ける意味合いもあり、客の来店頻度が低下する傾向が続いている。一方、まとめ買いによる買上点数の上昇がみられる。また、巣籠り消費のなかで多少値が張ってもおいしいものを食べたいという気持ちがあるのか、本マダロや国産牛肉のような高単価商材も新型コロナウイルス禍前と比べてよく売れている。
	□	スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、営業指標などの数値に大きな変化はみられない。来客数は減少しているものの、客単価が上昇していることで、売上は前年を3～5%前後上回って推移している。元々、レストランや居酒屋などの事業者による買上が多くみられていたが、それにもかかわらず来客数の減少が5%程度にとどまり、客単価が大きく伸びていることから、家庭内需要が相当増えていることがうかがえる。
	□	スーパー（役員）	販売量の動き	・節分商材やバレンタイン商材の販売が好調である。外食、旅行などの費用がこうした家庭内イベントの費用に回っているとみられる。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は減少したままである。ただ、客単価が上がっていることから、売上が若干の減少にとどまる状況が続いている。
	□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年の初売りは来客数が前年の60%にとどまった。また、必要なものしか売れなかったことで客単価も落ち込んでおり、良いところが全くなく苦戦した。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・12月は客の動きが悪かったが、1月に入り客の動きが良くなっており、販売量が増えている。当社の決算が近づいていることもあり、売れている営業マンも多くなっている。ただ、例年、当地では春先に向けての需要がみられ始める時期であるため、景気が良くなっているのか判断に難しい面もある。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・1月の販売量は前年並みに推移している。客の動きもそれほど悪くない。ただ、法人客の一部では、在宅勤務などの影響で商談に時間が掛かるケースが増えている。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・自粛傾向が全体的に強まっていることで、販売量が減少している。	
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・悪い状況のまま変化がみられない。ネガティブな報道の影響もあり、景気が良くなる気配も感じられない。	

□	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・当地の警戒ステージが下がらないなか、外出自粛の影響もあり、来客数が増えてこない状況にある。そのため、店頭での通信サービス販売もなかなか増えてこない。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の予約状況、売上をみても3か月前とほぼ変わらない状況にある。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・感染拡大地域からの客の利用について、独自条件を設定しており、それをクリアできない場合はほかの席との間隔を空けるようにするか、利用自体を遠慮していただくようにしている。また、店内における受入許容人数を設定していることもあり、来客数が以前の水準に戻っていない状況にある。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみる限り、景気は悪い。仕事量が段々と減ってきているようである。
▲	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・来客数が回復してこない。特に1月は感染者が全国的に増えたことで、来客数が極端に落ち込んでいる。
▲	コンビニ（エリア担当）	それ以外	・感染者の増加に伴い、商材の動きが一層落ち込んでいる。店内での販売は、来客数が減少しているものの、客単価の上昇により落ち込み分をカバーできているが、外販の減少幅が拡大しており、全体売上も減少している。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・時間帯にもよるが、3か月前と比べて客の動きが落ち込んでいる。繁華街でオープンしている店の数、タクシー運転手の話などからも景気の悪さがうかがえる。
▲	家電量販店（店員）	来客数の動き	・正月の初売りの客足が鈍かった。後半になっても来客数の伸びがみられなかった。
▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・例年であれば増販期を迎える時期であり、客の来店も活発になってくるが、今年は様々な業種での低迷が報道されていることもあり、客の動きがとても悪い。新型コロナウイルスの感染拡大も影響している。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・いまだに新型コロナウイルスによる影響が続いており、なかなか上向きになってこない。
▲	その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・懸念していたとおり、来客数の減少がみられ始めている。前年は新型コロナウイルスの影響で衛生関連商材の動きが良かったが、今年はその分がマイナスとなっている。
▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・当地においては、まず街中の飲食店などで新型コロナウイルスのクラスターが出たことで、人通りがほぼなくなった。その後も、隣町で複数のクラスターが生じ、累計で何百人という単位の感染者が発生したため、住民が飲食などに出掛ける機会もほぼなくなった。このため、限られた客しか来店せず、このままで営業を続けていけるのかと思うほどの客入りで困っている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・年明けからの緊急事態宣言の影響により、客の動向がますます悪化してしまっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・この3か月間、来客数が徐々に減ってきている。繁華街は客の流れもなく、深夜は一瞬ゴーストタウンにみえるほどの壊滅的な状況にある。店も商売をやめてしまったのか、シャッターが降りているところも多い。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出自粛が長期化しており、営業収入が低迷している。また、貸切りバスの稼働率も低迷しており、このまま続けば事業継続も危ぶまれる。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・新年会や成人式などのイベントが中止となるなど、人の動きが減少している影響で来客数が減少している。
▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、分譲マンションのモデルルームに来訪する客の多くが、気軽に再訪できなくなっている。そのため、契約に至るまでの時間が長くなってきている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の来街者が減少している。特に土日の人出は、新型コロナウイルス禍前の半分以下の水準に落ち込んでいる。

×	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地は他地域に先駆けて緊急事態宣言相当の自粛が要請されたが、その成果もあり、感染者数が減少傾向に転じている。ただ、それと裏腹に中心部の通行量は、日中で通常時の半分程度、夜間で2割程度まで落ち込んでおり、商売にならない状況となっている。休業要請の対象業種ではない店舗も休業に追い込まれており、事態は一層悪化している。Go To 商店街キャンペーンも延期を繰り返していることで、いまだに実施に至っておらず、実施予定者側も疲労困ぱいしている。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・当地でも新型コロナウイルスのクラスターが幾つも発生していることで、ゴーストタウンのようにになっている。1月の売上は前年比16.4%にとどまっており、35人の社員を守れなくなってきた。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・Go To Travel キャンペーンの一時的停止、11都府県を対象とした緊急事態宣言の発令があったことで、観光客、ビジネス客が減っている。体感では前年から8～9割近い減少とみられ、前年4月に緊急事態宣言が全国に拡大されたときと同じような状況にある。
×	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・当地では、1月に入り、地域の様々なところで新型コロナウイルスの感染者が発生しており、その影響で客足がほぼ途絶えている。特に顧客である飲食店への影響が顕著であることから、景気は悪い。
×	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・今年度はインバウンドによる売上がほとんどないため、インバウンドの売上比率が余り高くない3か月前と比べると景気は悪くなっている。また、国内客による売上についても、東京都などに緊急事態宣言が発令されたことが影響して、当地の消費マインドも低下しており、厳しい状況にある。
×	百貨店（役員）	販売量の動き	・景気は悪い。新型コロナウイルスの影響が原因のほぼ100%を占めている。
×	スーパー（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまでは客の来店頻度が低下する一方で、まとめ買いによる単価上昇がみられたことで、結果的に売上が増加傾向にあったが、1月に入ってからは来客数の減少はそのまま、客単価が落ち込む傾向がみられる。
×	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・一時期営業を自粛していたこともあり、1月の売上は前年の30%台まで減少し、景気が悪かった。ここ最近は、夜はもちろん、昼の売上も伸びてこないことから、やる気が出ない状況にある。自粛要請に伴う協力支援金などについては、個人店にとっては良いかもしれないが、多くの従業員を抱える店にはとても足りない。持続化給付金を受給した個人レストランでは確定申告で所得が増えたため、来年度の税金が増えることを心配していた。また、他地域に出張する際に、直前になって新型コロナウイルスの感染者が出たため、つてを頼って感染に関する情報を調べたが、ある観光協会のように店名などを出してくれると、多少、安心して出張や食事ができる。
×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・国や北海道による自粛要請とGo To Travel キャンペーンとのギャップに振り回されている。来客数も激減している。
×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴うGo To Travel キャンペーンの一時的停止、東京都などを対象とした緊急事態宣言の発令により、観光客が激減している。1月からは一部店舗の休業、ランチのみの営業時間短縮を余儀なくされており、売上確保が困難な状況となっている。
×	スナック（経営者）	来客数の動き	・現在、当店は休業している。他店も苦勞がとて多く、休んでいる店もかなり多くみられる。1日も早くこのような状況から脱却できることを期待している。
×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・東京都などを対象とした緊急事態宣言、北海道における不要不急の外出自粛要請、Go To Travel キャンペーンの全国一斉停止などの影響で、集客できる状況にはなく、一切の事業が停止している。

	×	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーン事業の一時停止、11都府県を対象とした緊急事態宣言の発令により、宿泊稼働が前年比で約マイナス88%となるなど、停滞している。
	×	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、11都府県を対象に緊急事態宣言が発令されたことで、流氷観光を目的に計画されていたチャーター便や団体旅行などがキャンセルとなった。今年の当地の冬季観光は外国人観光客の消失に加えて、国内旅行者も減少することになった。
	×	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・年末年始のGo To Travelキャンペーンの全国一斉での一時停止に加えて、国内の一部を対象とした緊急事態宣言の発令により、客は旅行どころか外出すら自粛している状況にある。申込みは皆無であり、旅行を予定していた客もほぼ全て予約を取消している。
	×	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが一時停止となり、11都府県に緊急事態宣言が発令されたことで、来店の動きが途絶え、道内宿泊の予約すらない状況にある。航空会社の減便の影響で、払戻しも多く、売上がマイナスの日々が続いている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンが一時停止となり、1月には東京都などに緊急事態宣言が発令されたことで、人の動きがますますなくなっている。特に繁華街などの夜の人出は全くみられない。例年、雪が降る冬季はタクシーの利用が多く、電話での注文も多くみられるが、今年は電話注文も激減している。1月のタクシーの売上は12月と同じく前年比マイナス50%であった。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・12月の壊滅的な売上に続き、1月も全く期待できない状況となっている。当地では、夜間の飲食を自粛するだけでなく、昼間の外出も感染を警戒して控える動きが強まっており、人出が減少している。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・当業界は人が動かないと仕事にならないため、前年の秋以降、急激に売上が落ち込んでいる。既に前年の春のような落ち込みとなっており、自粛期間が長引くことになれば、今以上の落ち込みとなる。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・11都府県に緊急事態宣言が発令されたこと、当地においてもクラスターが発生していることで、人の外出がますます減ってきている。こうした状態がいつまで続くのか心配である。いち早いワクチンの接種開始を期待している。
	×	観光名所 (従業員)	来客数の動き	・3か月前の10月は、例年の60%ほどの利用客がみられたが、1月の利用客は25日現在で例年の6%にとどまっており、開店休業状態に近いほどの惨状である。
	×	美容室 (経営者)	お客様の様子	・当地は緊急事態宣言が出されている地域ではないが、客が外出を自粛している。
	×	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー] (従業員)	来客数の動き	・北海道における新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、輸送量が著しく減少している。
	×	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・前年の10~11月は、年内に新型コロナウイルスの感染拡大が収束するという見通しがあり、甘い期待を持っていたが、年明けから全国的な感染拡大傾向が生じていることから、大変な危機感を抱いている。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—	—
	○	家具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下における外出や旅行の自粛により、ステイホームが助長されていることで、家具需要は底固いものがある。
	○	通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当社においても営業活動を制約しているが、テレワークやI o Tの一層の利活用に向けた環境整備、強化に対するニーズが好調であり、当社の業績は堅調に推移している。周囲の企業も同様である。

	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍にあっても、北海道の公共事業は継続して行われている。大都市圏における民需の落ち込みと比べれば、マイナスの影響は軽微なものとなっている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量について、前年比で1割前後落ち込んでいる状態が続いている。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・次年度着工の民間建築工事がいまだに受注できていない。新型コロナウイルス禍における業績悪化に伴う設備投資計画の延期、見送りが相次ぐなか、大手ゼネコンが受注価格帯を切下げて見積りに参加してきており、競争環境が厳しくなっている。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響により、景気が落ち込んでいる。特に観光業に関連した取引先は致命的なダメージを受けており、倒産した会社もみられる。一方、不動産業界や建築業界は前年半ばには落ちるところまで落ちており、現在まで横ばいでの推移となっている。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・景気は一度盛り返しの動きをみせたが、新型コロナウイルスの感染動向に波があることから、慎重な姿勢はしばらく続くことになる。顧客の業績も全盛期と比べればかなり落ち込んでいる。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は引き続き横ばいの状況にある。こうした状態はまだしばらく続くともみられる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、顧客の設備投資意欲が戻ってこない。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年から10～15%落ちている。今後も厳しい状況が続くとみられる。
	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・例年であれば、年度末しゅん工の公共工事と民間工事で飽和状態となるところであるが、今年は新型コロナウイルスの影響で民間工事が激減しているため、年度末を待たずに仕事量に空きが生じている。
	▲	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・家畜用飼料原料の取扱は引き続き順調に推移している。一方、例年であれば農産物関連商材の荷動きが活発になる時期であるが、今年は消費が鈍化していることで、本州送りの商材が伸び悩んでいる。紙パルプ、飲料関連も同様に動きが悪い。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う外出や往來の自粛要請が、消費行動の制約やマインド悪化につながっている。巣籠り消費の盛り上がりなどにより、業態によっては特需もみられるが、総じてみれば消費、投資のいずれも弱含みである。このため、道内景気は3か月前と比べてやや悪くなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・前年と比較して不動産の売買、建物の新增改築工事の受注減少が続いている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での営業ができず、営業活動が縮小されているため、不動産取引自体が減少している。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・全体的な仕事量の減少により、消耗品の動きが悪くなっており、売上のベースとなる商材の落ち込み幅が大きくなってきている。
	×	*	*	*
	◎	—	—	—
雇用関連 (北海道)	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・観光関連業界や外食産業以外での求人がやや増加している。アルバイトやパートの求人よりも正社員の求人が特に堅調な動きをみせている。
	○	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・12月の有効求人倍率は1.27倍となり、前年を0.02ポイント下回ったものの、新規求人数、就職件数が前年を上回っていることから景気はやや良くなっている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における12月の有効求人倍率は0.87倍であり、前月との比較では0.01ポイント下回ったが、3か月前との比較では0.07ポイント上回っており、上昇傾向がみられる。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地は道内有数の観光地であるが、冬のイベントが軒並み中止、縮小しており、観光客の入込が全く期待できない状況にある。ただ、今年は雪が多いことで除雪、排雪作業が活発なほか、寒さが厳しいことで水道管の凍結が多発しており、建設業や管工事業が多忙である。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・当地では11月に新型コロナウイルスの大規模クラスターが生じたことから、非常に人出の悪い状況が続いている。タクシー業者や飲食店からは11月以降、客足がぱったりと止まっているとの話を聞いている。
□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、一部の業界を除けば不景気感が強くなっている。新卒の採用活動はリーマンショック時よりも悪い状況にある。
▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は3か月前と比べて増加傾向にある。職種としては営業系の求人が増えており、次にシステム系の求人が多くなっている。業績の低迷をばん回するため、営業系の求人が増えているように見えるが、採用基準は厳しく、即戦力にならない人材の採用は見送られている。求職者にとっては、今、勤務している会社の業績に不安を感じて退職しても、次の就職まで厳しい関門が待ち受けている。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地において緊急事態宣言は発令されていないものの、人々の消費マインドが低下しており、特に飲食店は軒並み厳しさを増している。求人広告件数にも大きく反映されており、飲食については前年比50%を下回っている状況にある。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・Go To Travelキャンペーンの一時停止に加えて、11都府県を対象に緊急事態宣言が発令された影響により、道内企業においても受注業務の計画見直しなどの動きがみられ始めている。また、各種イベントの中止や規模縮小などもあって、先々の見通しも立てづらくなっている。何よりもマインド的にマイナスイメージが強くなっている。
×	—	—	—